

## 令和5年度 第2回 都市環境デザイン委員会議事概要

日時：令和5年6月13日（火）10：00～

場所：帯広市役所10階第3会議室

### 【出席委員】

赤嶺委員長、府川副委員長、青木委員、大宮委員、数田委員、小村委員、和田委員

### 【事務局】

岡田都市政策課長、中島都市計画係長、三浦主任補、岡田係員

### 【傍聴者等】

報道関係者 1名

### 【議事概要】

#### 1 開会

「帯広市都市環境デザイン委員会設置要綱第6条第2項」に基づき、半数以上の委員が出席していることから、会議が成立することを確認した。

#### 2 委員長挨拶

#### 3 議事

##### (1) 第18回帯広市まちづくりデザイン賞について

事務局より、今年度のまちづくりデザイン賞の実施について説明。

賞の応募が多かった場合の視察・選考行程について、意見・質疑は次のとおり。

(委員)

視察から選考まで1日で終わった方が、視察時の記憶が薄れなくて良いと思う。

(委員)

昼食の自己負担は問題ない。

(委員)

昼食はバラバラにとるのか、各自持参するのか、それとも飲食店に行くのか。

(事務局)

全員で昼食をとることを検討する。

(委員)

過去に、去年を超える応募件数があった時はどうしていたのか。

(事務局)

去年の7件を超える年はなかった。現地視察の日と審査の日を分けていた年はあった。

(委員)

書類選考というのはなく、応募された物件は全て見に行っていたのか。

(事務局)

そのとおりである。令和3年度は新型コロナウイルスの影響で現地視察ができず、動画による審査をしたが、他の年は応募物件を視察している。

(委員)

書類審査を取り入れることを考えてみてもいいのではないか。

(委員)

応募件数にもよると思うので、必要に応じて検討してはいかがか。

賞の視察・選考行程について、応募件数が多数の場合でも1回の委員会で視察から選考まで行うこととした。書類選考については、応募状況を見ながら検討していくこととした。

その他の内容について、委員からの意見・質疑は次のとおり。

(委員)

視察時の車は乗り合わせで行くのか。

(事務局)

7人乗りなど大きめの公用車2台を使用する予定である。

(委員)

賞の視察・選考は平日に行うのか。

(事務局)

平日に行っている。

(委員)

外観のみの審査になるのか。建物内部は審査対象外ということか。

(委員)

そのとおりである。

(委員)

市街地から離れた農村部の建築物でも応募は可能か。

(事務局)

実施要領第5条により、応募対象は帯広市内とあるので、農村部の建築物でも問題ない。

(委員)

特別賞の選出基準があいまいと感じる。

(委員)

これまで規模の大きい建築物の応募が多く、個人宅がほとんどない状況であっ

た。第14回特別賞のMC邸については、建築物としての評価も出来るし、今後個人宅の応募を期待するというメッセージも込めて、特別賞に選出したと記憶している。

(委員)

特別賞は、規模や建築年数などの点で他の応募物件と同じ土俵での評価が難しい時に選出しており、明確に定義があるというわけではない。その時の応募物件によるところもあると思う。

(委員)

第16回は優秀賞が2件あるが、どういう経緯か。

(委員)

この時は両物件とも評価が高く、どちらも落とせない、どちらも評価したいという議論でこのようになった。

(委員)

前回受賞しなかった物件が今回も応募する可能性もあるのか。

(委員)

最初応募した時には賞に選ばれなかったが、何年か後にもう一度応募した際に受賞したケースがある。時間の経過によって植栽が育ち、環境が変わることで良い評価につながったのでは。

(事務局)

応募の回数については実施要領に記載がない。何回応募しても問題ない。

#### 4 閉会

以 上